

<復習>

§ 7 知識とはなにか？(2)

3、「知識」(命題知)をどう定義するか？

- (1) JTB とゲティア問題
- (2) 知識の因果説
- (3) 逸脱因果の事例
- (4) ドレツキによる逸脱因果の問題の解決
- (5) 内在主義 vs 外在主義
- (7) 内在主義対外在主義を超えて (ロバート・ブランダム)

・私たちは、多くの弁別反応を信頼して、それにもとづく知識を認めている。

・しかし、信頼できる弁別反応があるというだけでなく、それが信頼できる弁別反応であることの気づきや正当化が必要であろう。さもなければ、そこから知識をえることはできない。

・弁別反応(によって生じる信念)について、そこから何が帰結し、何が帰結しないか、それが何と両立し、何と両立しないか、などを推論できるので、それらの信念が知識とみなされるのである。

(入江:信念も知識も、因果関係だけで生じるのではない。信念や知識は、問いが与えられたときにそれに対する答えとして生じる。問われたときに、信頼できる弁別反応にもとづいて、ある命題を答えとして選ぶことは、合理的なことであり、その答えは合理的な答えであるだろう。)

(8) Knowledge-first epistemology と文脈主義

<知識ファースト認識論>(Knowledge-first epistemology)

Belief-first epistemology: 知識を信念から説明しようとする。

Knowledge-first epistemology: 知識を basic で分析できないものとみなす。知識から他の factive verbs を説明しようとする立場である。

<文脈主義>(Contextualism)

「知る」という語の意味は、文脈によってことなる。

「知識」はその意味で多義的なものだから、「知識」の一つの定義を求めることはできない。

知識ファースト認識論と文脈主義は、矛盾する。

文脈主義は、知るが factive verb であることと矛盾する。なぜなら、文脈によって P を知ったり、知らなかったりすると、文脈に応じて事実が異なることになるからである。

(9) Question-first epistemology(入江)

私はここで、<問題ファースト認識論>を提案したい。これは、知識や信念は、問いに対する答えとして成立する、とする立場である。

・「知る」の意味は文脈によって異なる。なぜなら、知識は、問いに対する答えとして成立し、それゆえに、問いによって、答えの厳密さもまた異なり、「知る」の意味もまた文脈によって異なるからである。

・しかし、ある問いの答えとしては、「pを知っている」と言え、別の問いの答えとしては「pを知っている」と言えないとすると、知は真なる信念であり、それは事実を捉えているという know の factiveness と矛盾するように見える。

・この矛盾を回避する一つの方法は、事実を固定的に捉えることをやめることである。何が事実であるかは、問いに応じて変化すると考えることができるならば、矛盾は解消する。(これは内的実在論(何が存在するかは、理論や言語に相対的であるとする立場)に対応する。)

・知識の哲学において、知識の因果説の困難からブランダムの推論主義に至る過程は、科学哲学において、検証原理を修正するなかで、確証の全体論に行き着いた過程と似ている。どちらも要素主義的なアプローチの失敗から、全体論的なアプローチへの移行という経過をたどっている。

§ 8 心の哲学

参考文献

- ・ジョン・サール『マインド』山本貴光・吉川浩満訳、朝日出版社
- ・ジョン・サール『ディスカバー・マインド』宮原勇訳、筑摩書房
- ・Wikipedia「心の哲学」

心の哲学の中心問題は、「心と脳はどう関係しているのか」である。これに対する答えは次のように分類できる。

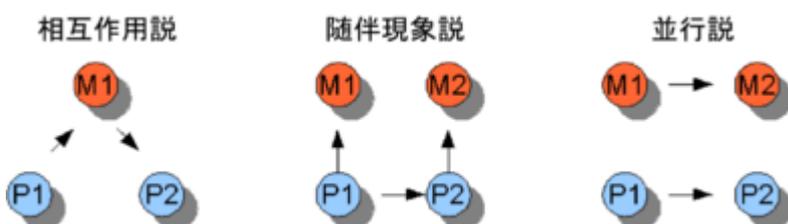
1 心脳関係に関する主な立場

(1) 二元論 (Dualism) : 物心二元論の諸形態

①相互作用二元論 (Interactionist dualism) デカルトの物心二元論

②随伴現象説 (Epiphenomenalism) トーマス・ヘンリー・ハクスリー (心的現象は因果的に無力である)、フランク・ジャクソン

③心身並行説 (Parallelism) ライブニッツの予定調和(pre-established harmony)説





三つの異なる二元論。左から相互作用説、随伴現象説、並行説（性質二元論は描かれていない）。Pは物理的状態（Physical state）を、Mは心的状態（Mental state）を、そして矢印は因果的な原因から結果への方向を表す。

物心二元論の問題点：「心と物の間の作用をどのように説明するのか」

心と物の間の作用の想定は「**物理的因果の閉鎖性**」と矛盾する。「**物理的因果の閉鎖性**」とは、<物理的な力が作用する対象は物理的なものであり、物理的な因果性は、物理的な出来事との関係であり、物理的な出来事の内部に閉じている>ということである。もし物的な出来事と心的な出来事との間に作用があるのならば、その作用は物的な作用であり、その場合の心的な出来事は、実は物的な出来事の一部であり、二元論は成り立たない。

「二元論」が<二つの種類の出来事ないし存在者があって、それらが異質であり、互いに作用しない>と考える立場であるならば、心と物の二元論では、両者の間に作用はないことになる。しかしこれは、我々の常識に反する。

（２） 一元論（Monism）の諸形態

- ①観念論(Idealism)唯心論(Mentalism)（バークリ、フィヒテ、ヘーゲル）
- ②中立一元論（Neutral monism）（センスデータ一元論、現象論、唯識思想）
- ③物理主義（Physicalism）唯物論(Materialism) 自然主義（Naturalism）

（３）物理主義の諸形態

(i) タイプ同一性(Type-identity theory) タイプ物理主義(Type physicalism)

J. J. C. Smart, Ullin Place

「コーヒーを一杯欲しいという欲求」＝「脳のある領域のあるニューロンの発火」

・タイプ同一性に対しては、Hilary Putnam が、**多重実現可能性**(multiple realizability)を主張して、心は脳の状態と同一ではないと主張した。

(ii) 機能主義 (Functionalism)

Hilary Putnam, Jerry Fodor. computational theory of mind.

心は、脳の機能に還元される。その意味では心は脳やコンピュータの機能と同一である。

・機能主義は、後で見る**クオリア**を説明できないと批判されている。また、**非還元主義的****物理主義**によって批判されている。

(iii) 消去主義的唯物論 (Eliminative materialism)

チャーチランド：心的状態は、日常の「**素朴心理学**」（**フォークサイコロジー**）が持ち込んだ虚構である。

(iv) 非還元的物理主義 (Nonreductive physicalism)

心は、脳の状態や機能に還元できないと考える立場。そのために、付随性(supervenience)を主張する。

Donald Davidson : 「非法則的一元論」 「トークン同一説」 (来週説明)

最初の3つは、「還元的物理主義」(Reductive Physicalism)に分類される。
サールは *Mind* の第4章で、還元(reduction)を次の3つに区別している。

①存在論的還元 : 物体→分子

「AはBからできている」というとき、これを「Aの存在は、Bの存在に還元できる」と言える。

②因果的還元 : 固体→分子のある振る舞い

「性質Aが性質Bから説明できる」とか、「機能Aを機能Bから説明できる」というとき、「Aの性質/機能を、Bの性質/機能に還元できる」といえる。これは、「機能的還元」「性質的還元」といってもよいかもしれない。

サールは、意識→神経の振る舞い、意識の性質を神経の振る舞いで説明する、あるいは意識の機能を神経の機能で説明できると考える。

③消去的還元 : 日没→地球の自転

還元はこの分類に基づけば、物理主義を次のように整理できる。

A 還元主義的物理主義

- ・タイプ同一説は、「心の存在論的還元」を主張している。
- ・機能主義は、「心の機能的還元」を主張している。
- ・消去主義は、「心の消去的還元」を主張している。

B 非還元主義的物理主義

2、物理主義批判の可能性

(1) クオリアとは何か (参照 : 「クオリア」 wikipedia)

心的な現象は、二種類に分けられる。「クオリア」と「志向性」(後で説明)である。

クオリア (英 : 複数形 *qualia*、単数形 *quale* クワレ) とは、心的生活のうち、[内観](#)によって知られる現象的側面のこと、とりわけそれを構成する個々の質、感覚のことをいう。感覚質と訳されることもある。

・「クオリア」という概念は、クオリアの存在や違いを、物理法則では説明できないと主張し、物理主義を批判するために用いられることが多い。

(2) クオリアが存在するなら、物理主義は間違いだ

これを示す次のような思考実験がある。

- 哲学的ゾンビ (Philosophical Zombie)
- 逆転クオリア
- マリーの部屋
- 中国語の部屋

■ 「ゾンビ論法」 (zombie argument) とは物理主義を批判する以下の論証を指す。(「哲学的ゾンビ」 [wikipedia](#))

1. 私たちの世界には意識体験がある。

意識、クオリア、経験、感覚など様々な名前と呼ばれる「ソレ」が、「ある」という主張である。これは、基本的に素朴な主張である。

2. 物理的にはこの世界と同一でありながら、私たちの世界の意識に関する肯定的な事実が成り立たない、論理的に可能な世界が存在する。

現在の物理法則がすべて成り立っているが、クオリアを全く欠いた世界が論理的に想像可能である。この哲学的ゾンビがいる世界を、ゾンビワールドと言う。

3. したがって意識に関する事実は、物理的事実とは別の、私たちの世界に関する更なる事実である。

私達の現実世界には、意識、クオリア、経験、感覚が備わっているという事実がある。それは、現在の物理法則には含まれていない。

4. ゆえに唯物論は偽である。

■ [逆転クオリア](#) (「クオリア」 [wikipedia](#))

同等の物理現象に対して、異質のクオリアがともなっている可能性を考える思考実験。色についての議論が最も分かりやすいため、色彩について論じられることが最も多い。同じ波長の光を受け取っている異なる人間が、異なる「赤さ」または「青さ」を経験するパターンがよく議論される。逆転スペクトルとも呼ばれる。

逆転クオリア 同じ周波数の光を受け取っている人間が、違う「赤さ」、つまり異なる赤のクオリアを体験している可能性を考える思考実験。逆転スペクトルとも呼ばれる。

■ [マリーの部屋](#) (「クオリア」 [wikipedia](#))

マリーの部屋 (Mary's Room) とは、Frank Jackson が「随伴現象的 [クオリア](#)」 "Epiphenomenal Qualia" (1982)、さらに「マリーが知らなかったこと」 "What Mary Didn't Know" (1986) という論文の中で提示した。

生まれたときから白黒の部屋に閉じ込められている仮想の少女マリーについてのお話。マリーは白、黒、灰色だけで構成された部屋の中で、白黒の本だけを読みながら色彩についてのありとあらゆる学問を修める。その後、この部屋から解放されたマリーは色鮮やかな外の世界に出会い、初めて [色](#)、というものを実際に体験するが、この体験 (色のクオリア

アの体験)は、マリーのまだ知らなかった知識のはずである。このことからクオリアが物理学的・化学的な現象には還元しきれないことを主張する。

■中国語の部屋

サールは、コンピュータが人間と同じように語ったとしても、それはクオリアを持たない、と考へて、思考実験「中国語の部屋」でそれを示そうとした。しかし、中国語の部屋の思考実験には、十分な説得力があるとは思えない。

クオリアについて通常の人間と同じように語るコンピュータが登場した時には、そのコンピュータにはクオリアがないとは言えない。もちろん、あるということもできない。

(3) クオリアは存在するのか

*「他人はクオリアをもつのか？」

①「ひとは、他人がクオリアをもつことを、どうやって知るのか？」

②「私は、他人がクオリアをもつことを、どうやって認識するのか？」

永井均ならば、①の問題設定はすでに、他人がクオリアをもつことを前提しているというだろう。しかし、この前提が正しいことをどうやって知るのかが問題である。それを問うには、②の問い方が必要である。しかし、この問いは、「私」がクオリアを持つことを前提している可能性がある。では、この前提の正しさをどうやって知るのだろうか。

*「私はクオリアを持つのか？」

私をもつ「赤」のクオリアが、他人がもつと主張している「赤」のクオリアと同じであるかどうかを確認することはできない。それならば、私が持つクオリアが、他人のもつクオリアと同質のものであることも確認することはできない。私は他人と同じように、クオリアについて語っているが、しかし、私が本当にクオリアを持っているのかどうかは、分からない。私が赤のクオリアについて語る時、「赤」も「クオリア」も、その使用の規則を知っていると思っているのは私だけである。したがって、これらの語は私的言語である。しかし、私的言語は不可能である。

(ウィトゲンシュタインの「カタツムリ」の話。永井均は、これと似た仕方で「意識は存在しない」と主張した(永井均著『なぜ意識は存在しないのか』)。

*このように考えるとき、そもそもクオリアが存在するのだろうか、わからない。もしクオリアについて有意味に語りえないならば、物理主義の批判にそれを用いることはできない。物理主義者は、志向性だけを説明すればよいことになる。

3 物理主義で志向性を説明できるか？

心的な現象は、二種類「クオリア」と「志向性」に分けられる。物理主義は志向性をうまく説明できるだろうか？

(1) 志向性(intentionality)とはなにか?

(サール『志向性』)

志向性とは、人の心がつ性質ないし機能であり、「何かについての意識である」という性質ないし機能のことである。

志向性は、知覚、記憶、信念、欲求、行為内意図、事前意図、に分類できる。

志向状態には、自らを超えて世界の中の対象と事態を指し示す能力がある。

志向状態は、次の二種類に分けられる。

命題を内容とするもの

対象を指示するもの (たとえば、マリリンを愛する)

(志向性 (intentionality)と内包性 (intensionality) は別のものである。内包性とは、外延性 (extensionality) に対立するもので、特定の文や言明その他の言語的な存在物が備える性質である。通常、文や言明の意味 meaning (指示対象 referent と区別されて) と呼ばれているものである。)

(2) 志向性は、心の機能に還元できるように思われる。

コンピュータが、このような志向性を持っているかどうかは、チューリング・テストによって確認することができる。そしておそらく未来のコンピュータは、このような機能を持ち、チューリング・テストをパスするだろう。したがって、志向性の説明は、物理主義にとっては解決可能な課題であり、クオリアの説明が困難な問題、ハードプロブレムだと考える者 (チャルマーズ) がいる。(チャルマーズは、「自然主義的二元論」を主張する。参照、チャルマーズ著『意識する心』林一訳、白揚社)

- ・サールは志向性を、生物としての人間の脳の機能として説明できると考える。

Figure 1 知覚

“How can animal be hungry or thirsty?” (Searle, *Mind*, 115)

the angiotensin2 gets inside the hypothalamus (視床下部)

① ↓ trigger

a certain neuron activity ② = a feeling of thirst (qualia)

③ ↓

④ ↓

a certain neuron activity ⑤ = a intentional feeling i.e. a desire to drink a water
(nonlinguistic intentionality)

⑥ ↓

⑦ ↓

a certain neuron activity ⑧ = “I want to drink water”
(linguistic intentionality)

Figure 2 (推論)

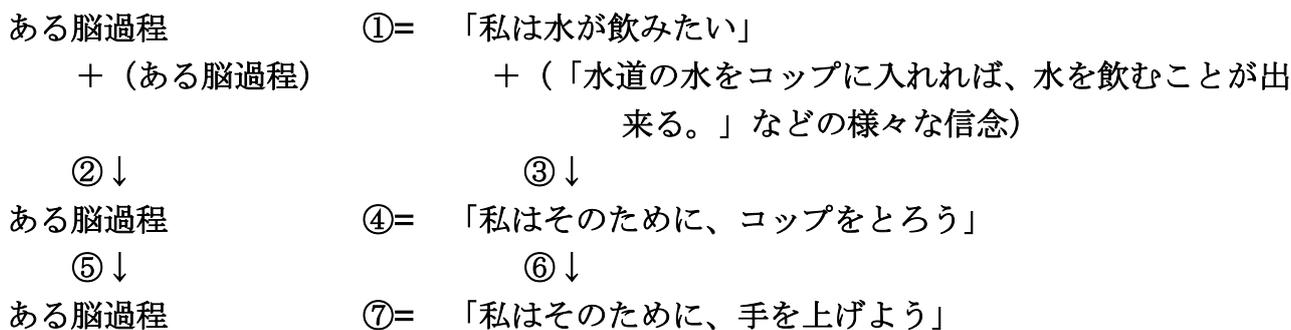
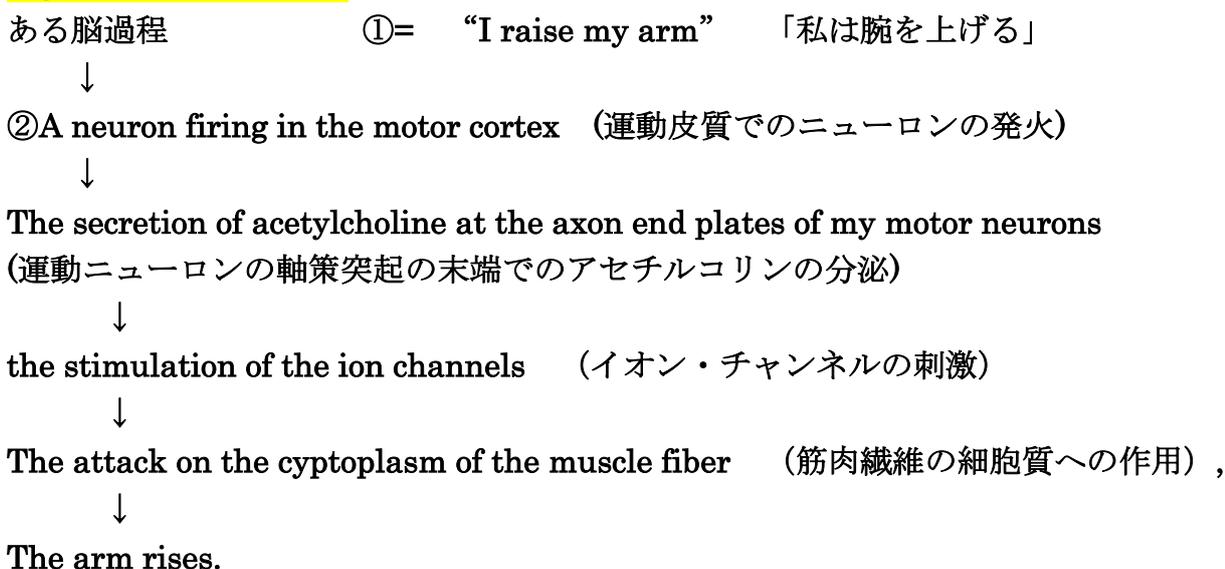


Figure 3 (心的因果)



■問題 Figure 2 の説明の困難

左の過程は、物理的な因果関係である。右側の志向性の過程は、合理的な実践的推論の流れである。この二つは、両立しないように思われる。

計算する時、例えば次のように考えましょう。

- | | |
|------------|--------------|
| 93 - 7 = ? | と他人に問われて自問する |
| 7 - 3 = ? | と上を解くために自問する |
| 4 | と自答する |
| 90 - 4 = ? | と上を解くために自問する |
| 86 | と自答する |
| 86 | と他者に返答する |

私達が計算を学習するこのようなプロセスは、一見すると因果関係では説明できないように見える。たしかに、計算機は、アルゴリズムに従って因果的に動く。アルゴリズムが内装されていれば、計算機は、物理法則に従って動き、計算をするだろう。では、このようなアルゴリズムは、どのようにして、人間の脳に自然的に発生するのだろうか？しかし、

どのようにしてかは分からないが、そのアルゴリズムが人間の脳にあるとしたら、それは因果的に説明できるだろう。

■問題 Figure3 の説明への反証

Figure 3 については、リベットの実験による反証がある（これについては、再来週、紹介し、検討する）

(3) 非還元的物理主義は可能か？

心が物理的に実現されるのだとすると、それは自然的に決定していることにならないだろうか？ 非還元主義的物理主義、つまり物理法則に還元されないような仕方で心を説明することは、本当に可能なのだろうか？ デイヴィドソンの主張を検討しよう。

=====

ミニレポート課題

1、あなたは、心の哲学に関して、どのような立場を取りますか？その理由を述べてください。

2、還元的物理主義者は自由意志を認めないと思います。あなたはそれに同意しますか、しませんか？ その理由を述べてください。

3、今日の講義内容に関連して、できるだけ根源的な哲学的な問いを立ててください。

=====